

KDDI財団のSDGsへの取り組み —ミャンマーにおけるICTインフラ整備と人材育成—



KDDI財団 理事長 **鈴木 正敏**

1. はじめに

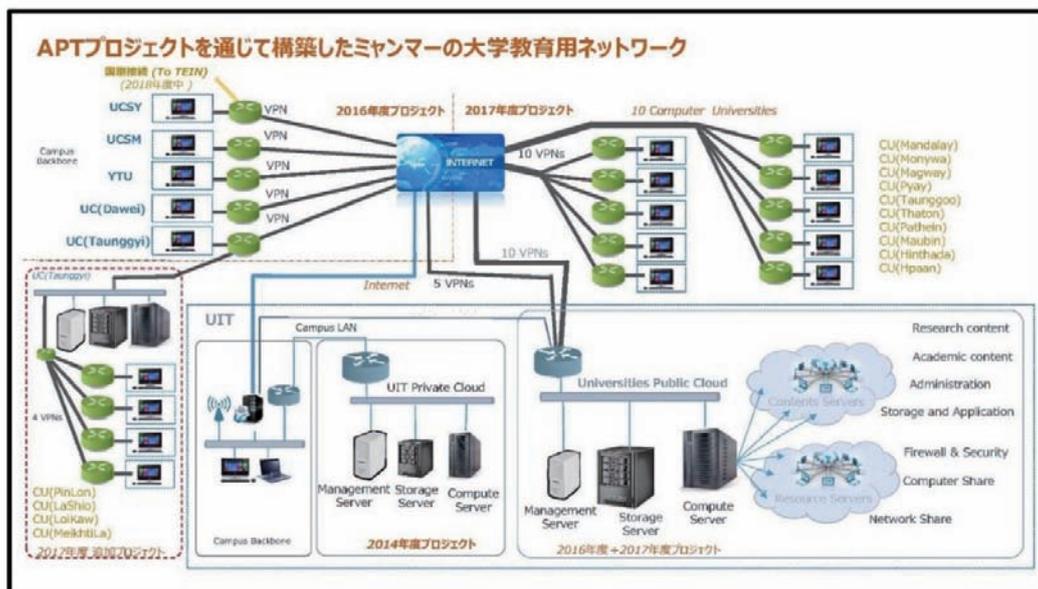
2015年の国連サミットでは、地球の水、エネルギー、資源、生態系などの地球環境を守り、安全かつレジリエントな人間居住環境を整備し、全ての人類を貧困・飢餓から解放しつつ、健康・福祉・教育・雇用の機会均等を実現することを目指し、2016年から2030年までの持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）を制定した。誰一人として幸福から取り残さないという壮大な世界目標達成に向けた17の具体的なゴールは、経済、社会、環境、科学技術などのあらゆる分野の英知を融合・調和させて実現すべきものであるが、その実現にはICT技術の果たすべき役割は極めて大きい。また、ジェンダー、国際間の不平等を解消するには、特に途上国のインフラ整備、教育、科学技術の底上げが重要となってくる。KDDI財団はKDDIグループの社会的使命を持つ公益財団法人として、グローバル・パートナーシップのもと、ICTによる世界の調和ある健全な発展に寄与することを目標に、これまでカンボジア、ミャンマー、ネパールなどの多くの途上国とICTを通じた国際協力や支援を行ってきた。本稿では、その一端として、ミャンマーでの大学教育におけるICTインフラの整備と人材育成とについて紹介する。

2. ミャンマーにおける教育用ICTインフラ整備

ミャンマーが進める国家改革において、教育用ICTインフラの改善は大変重要な役割を担うものと位置付けられている。教育用ICTインフラがまだまだ脆弱なミャンマーにおいて、ミャンマーの大学教育関係者と当財団を含む日本の関係者がまず着手したのは、APT（Asia-Pacific Telecommunity）によるプロジェクトを利用した大学教育用クラウドネットワークの構築である。2014年度から開始した最初のAPTプロジェクトは



■写真1. 大学の先生（中央2名）とのサーバ構築作業風景



■図. APTプロジェクトを通じて構築したミャンマーの大学教育用ネットワーク

『学内用プライベートクラウドシステムの構築』で、ミャンマー国内のコンピュータ大学の中核的存在である情報技術大学（UIT: University of Information Technology）に、教育と研究に利用する学内クラウドシステムを構築するとともに、このシステムの利活用方法や運用・保守や設定管理技術を技術移管した。2016年度からの第2のAPTプロジェクトでは、VPN（Virtual Private Network: 仮想専用網）によるネットワーク接続にて6大学を接続し、高度なICT教育用プログラムを共有クラウドシステムに実装した。また、2017年度にはAPT第3プロジェクトにより、クラウドシステムへの接続大学数を16大学まで拡張し、サイバーセキュリティ面での機能強化を図った。更に、当財団からの資金供与により、別大学（タウンジーコンピュータ大学）にクラウドサーバを複製して分散クラウドシステムを構成し、更に4大学を追加接続し、現在は、20大学が利用するまでに成長している。大学教育用共有クラウドシステムは、ミャンマーの大学教育や研究に貢献するとともに、これまでに培った技術を用いて、ミャンマーの教育用インフラ整備が順次拡大されるものと期待される。

3. ICT人材育成

大学でのICT人材育成に関する試みとして、2017年度より、アプリケーション開発を通じて社会的課題を解決する大学生向けアプリケーションコンテストを主催している。初回に当たる2017年度は、先に紹介したAPTプロジェクトを通じて関係を構築した大学を中心とする18大学を対象に開催した。応募総数55チームのうち、予備選考を通過した10チームによるデモンストレーションを2018年3月3日にヤンゴン市内のホテルで開催した。コンテストの開催にあたり、在ミャンマー日本大使館からの後援、複数の日系企業からの協賛をいただいた。

また、東京大学大学院の江崎浩教授に、このコンテストの審査委員会の共同議長を務めていただき、センスの良いアプリケーションと巧みなデモンストレーションを披露した情報技術大学のTEAM EASY-Qが見事優勝を勝ち取った。プログラミングに関する技術力はもちろんのこと、課題を把握・分析する力、総合的な企画力や英語でのプレゼンテーション能力を磨くこのコンテストは、ICT人材の育成に効果的であるため、今後も規模を拡大して実施予定である。

4. 今後の課題

今後は、これまで積み重ねてきた施策を継続実施すること、日本をはじめとする様々なパートナーとともに新しい試みを行い、大学教育における人材育成とICTインフラの改善に貢献したいと考えている。具体的には、先述の大学教育用共有クラウドシステムの拡張やアプリケーションコンテストの開催の継続実施に加えて、新しい試みとして、APNIC（Asia Pacific Network Information Centre）財団と当財団の共催にて、ミャンマー全土の大学の先生・ネットワーク管理者向けに、高度なインターネット技術を教授する研修、及び、日本の大学とミャンマーの大学のコラボレーションによる様々なアプリケーション実証実験（例：医療に関する遠隔教育）等を推進していく計画である。

SDGsの達成に向けては、国、分野を超えた多くの人々が、地球市民として全ての人々が平等に幸福であるためのあらゆる社会課題を解決するという共通の目標をもって、それぞれの役割を果たしていくことが重要である。KDDI財団も、グローバル・パートナーシップを強化しつつ、ICT先進国である日本の技術を広く世界に広げ、今後とも地道な活動を通して、SDGsの目標達成にささやかながら貢献できれば幸いである。



写真2. アプリケーションコンテスト集合写真